



上布辨解  
矢島志琢撰

洋学文庫  
文庫 8  
A 193





75  
118  
246

正  
不  
解

大  
規  
文  
庫



上布解

大觀文庫





上布辨解



古人之皇國の裨益ヲ隨へ備用品をこしは少くは説  
 少詳なりと云ふの拙り救ふべきに志せし自慢を以て  
 予維明治五甲より活生力蒙 并命依越二州田中神信國魚沼  
 郡五ヶ谷駅仔山の許に逗留し如之兵三予 語之文政年中薩摩國人  
 何某者暫の間逗留の切諸州巡回と告ふく云我奥羽二州按察の時  
 郊邑山野溪河に於て國の土産上布の味を嘗みたることも其後俚俗是  
 なる財を列採の製作を成るゝねと嗚呼と打て嘆息を暫  
 し者彼土に是を止め草茎皮を列り採りて檢束するに國産の上  
 布の草に違ふところあり而も又管皮の連皮を剥ぎ自制して之を

上布辨解



紵糸と推及来りて此品を流居一はわたり流号後ハ機工に  
 法知し速く出来に及り是令薩摩上布に同ハ彼土人知  
 此の實ハ又止也谷云昔國ハ一度安年同の頃より進國産同化して  
 隨ハ品ハ縮也又縮紵糸の源ハ奥羽の二州より牛馬と云く其ふちく  
 運ハ東ハ土地ヲ製造するハ紡績綷紵等名入度長年同三上板廠  
 國中工苧麻の苗枝枝附の市告何と云く今ハ苗根飽一きりと  
 谷云又云諸名織子工科入費等調ハ國ヲ格ふる百也佐幸國  
 此土産し〜持ち多り残りハ半途を止し持師を以て其のよと稱ふる  
 の代り〜粗皮の製込紵糸等や跡て誠檢るに大麻青紵苧麻等  
 又水中に採切き〜大強靱なりと云ふ

上布辨解

信濃 矢島忠琢 愚識

苧麻 イラ弁 目名 又弁根 マス弁 野ヒトサレサ 上イフ

子名弁 加州 野州 疼草

東武上野邊敷林中ハ陰湿地等甚多し苗の高サ三尺余方茎苧麻葉に  
 似く深緑色兩対立葉葉ハ白毛刺り人ハ整えしと甚し然して〜者〜  
 食ふ〜害た〜花葉ハ苧麻ハ彷彿す穂ハ葉の上入まると思ふと  
 苧麻花ハ葉の下垂々〜のや茎子節有り

一種 形ハ前葉に似〜西京黒布東大谷の邊ハ〜生さ〜の葉に黒点  
 有り白毛刺短長方莖ハ〜節有り



一種 信州戸隠山曾山中に生るもの方茎兩対葉八地瓜児に似く鉄歯  
粗花の葉葉間より救茎を抽出し茎とし炒り白毛刺有り

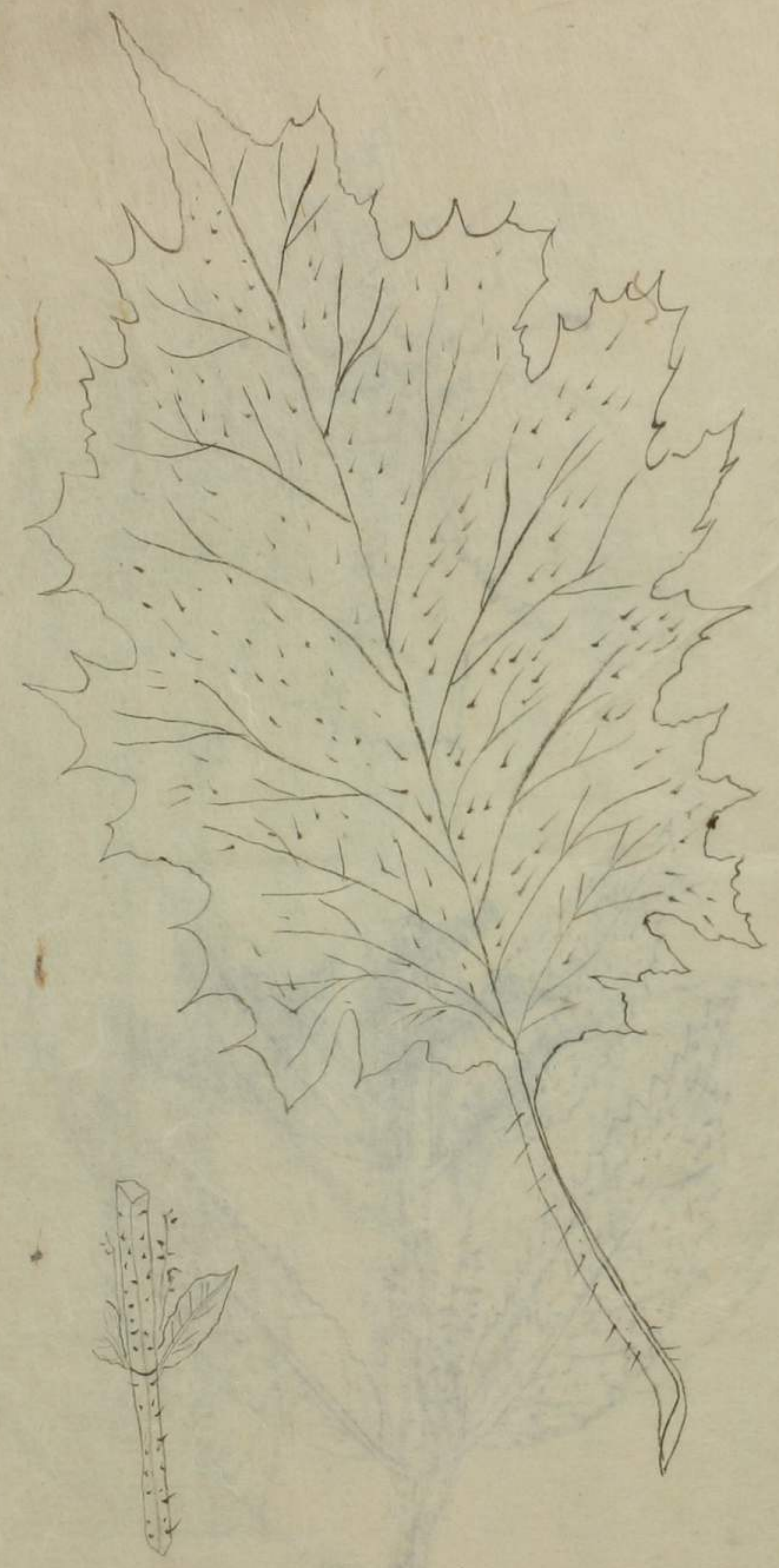
一種 山カコ草麻花 玉宿草脚 アナコ 和州

山野自生喬根より生る葉葉麻に似く少く長く有り夏梢穂生る形  
ち草麻の花に似く伸く半一花に枝多し秋葉の間は零箇子の如き紅  
黄色の實を生む此實は滑く又草を生む根の形又草麻根に似く短

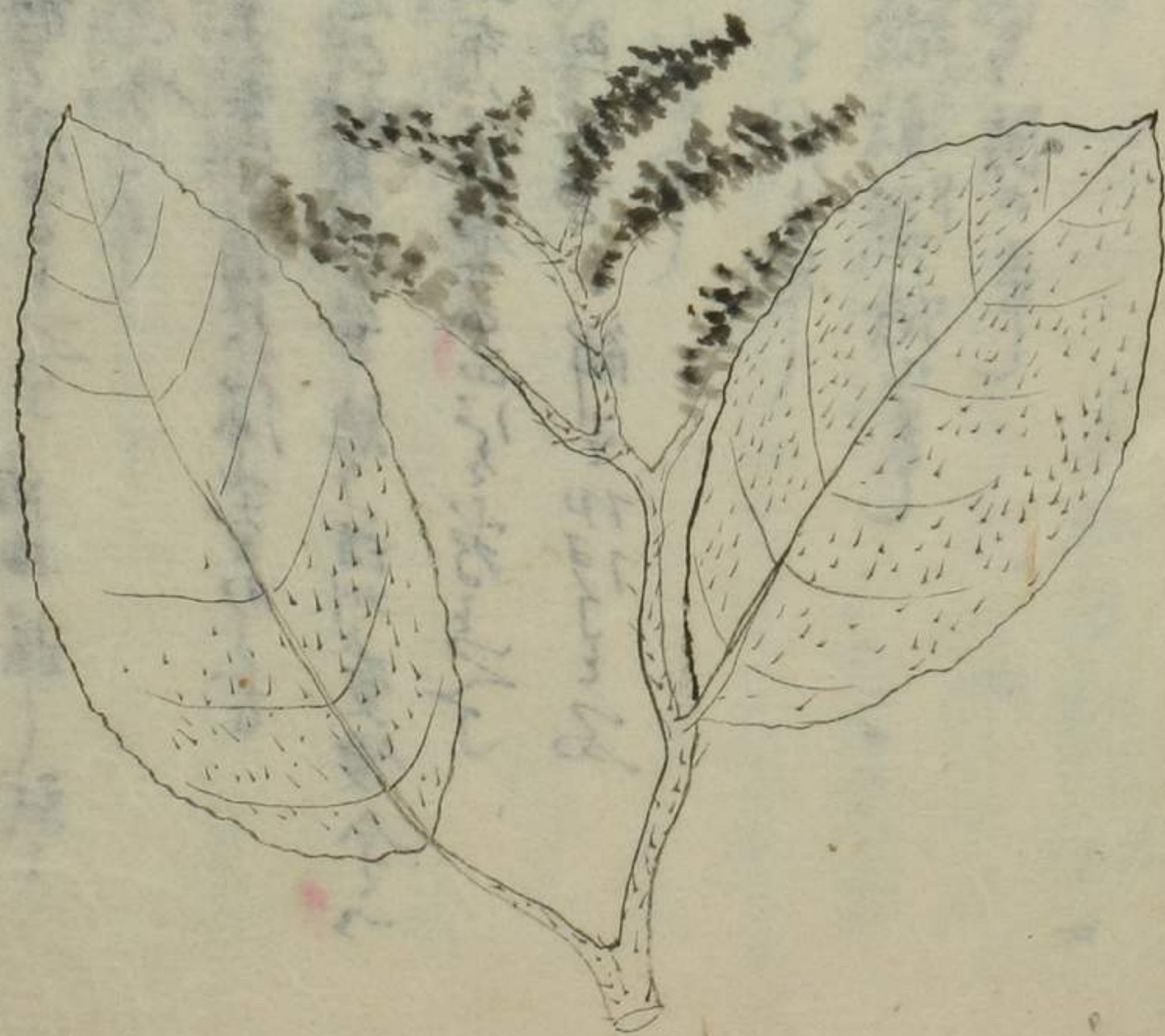
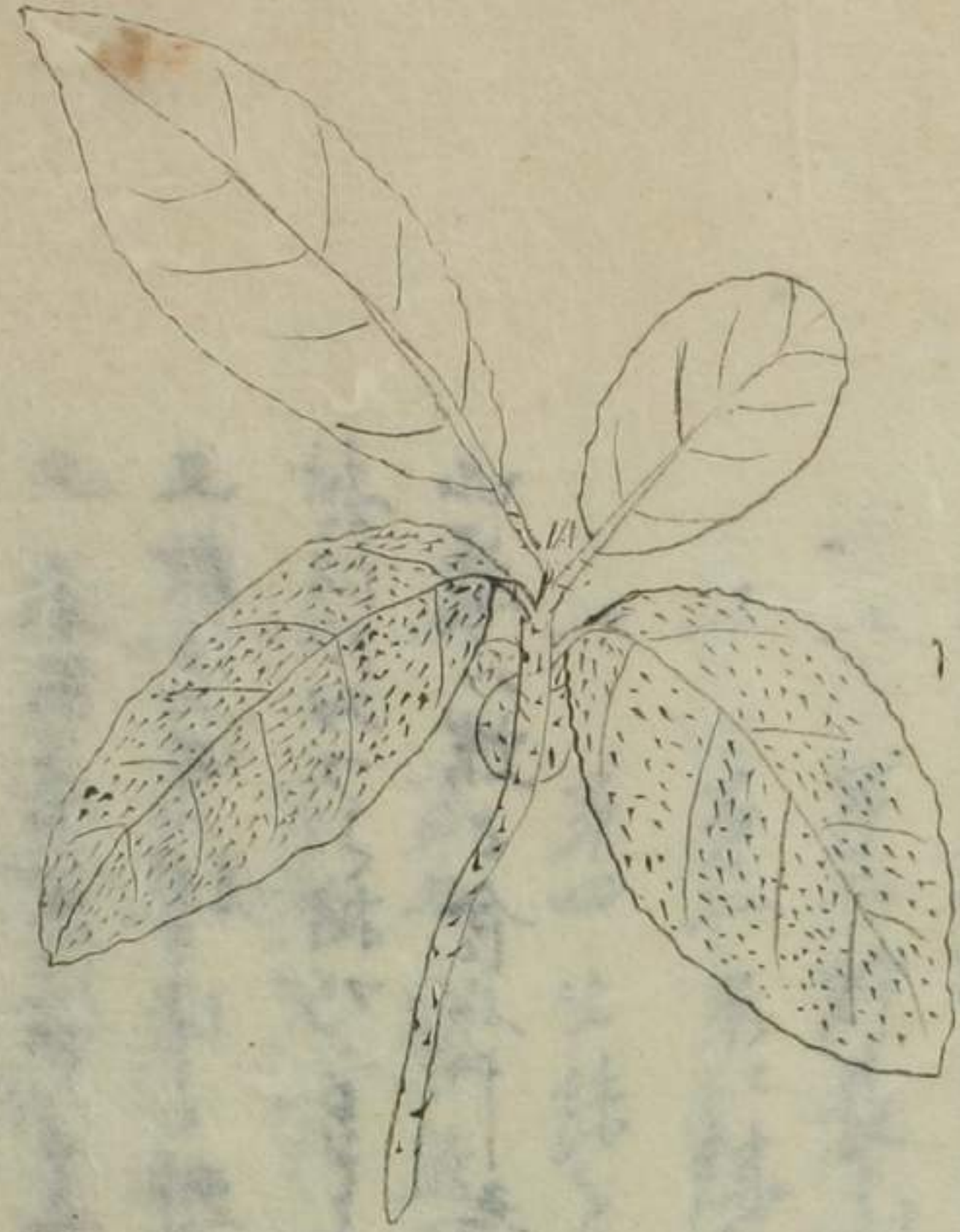
一種 山カコ草麻 異物

高さ三尺に及ぶ蘇葉の形に似く薄くして鉄歯細く有り生る  
四葉葉と白毛刺有り稍傘の如き形を有し実と結ぶ形は  
五龍草實に似く紡錘を有す

古今慎固事勢局羽州草麻葉二葉 敵烟無名に名にナクと斗實檢の葉  
鬼草









其時麻の方並節有り粗皮厚くしき多製成りたるものなり  
 又照 人の機園の所の竹の莖髓を用申すと云り 游按 様一試  
 考す此書解 子以きしなるもの也  
 又 零餘子の二高に竹を製作用の用に六海をわらむ  
 又 抄法上布抄中に抄中より運び 抄法偽名を 熟り 諸州に賣價金を  
 越法にわつて 檜乃をきくも 上布に薩摩の品にわらふと云り  
 此歳に煤と食ふより 無害又 魚をとり 解をわらふと云り

- 一 第一粗皮其皮を剥き 剥の事
- 一 第二竹長く裂き 約績ツク後ノリ試の事
- 一 第三 糸に縷をぬき 試の事
- 一 第四 生絲を製作 試の事
- 一 第五 製造を 試の事
- 一 第六 入山す 採時 限 試の事
- 一 第七 年入山す 草並 刈取 試の事
- 一 第八 田根より 採採 植附 試の事
- 一 第九 實と 採附 附 試の事
- 一 第十 采し 試の事
- 一 第十一 寒地 新規 園經 圃 試の事







三英尺及人を總の間に霜雪の下、括埋る又宿根する芽を挿す  
是天然の陽陽の柔運に属する処也年々歳之の新莖皮を刈取り  
の地土俗の生理に夏後最品なりと辨理製作隣國の綿布に  
戻りて天命に叶へるに自然信濃布と可招實、國中天資の富方  
と可仰そ

往古ハ信濃布と云く大蔵省ハ春秋二季の福布と内侍司に乞ふ神話  
ハ連接なるにつく自然と流世に濃布を移りたるを云し 神話

若古ハ濃布と云間の暇を顧く夏月の間ハ山に於て終る可  
州を刈り採りて生種皮の甘皮を能く剥き山賊の婦に終るに  
クと云し 製作機六事業布若に任是

文久年間海より信州高井郡須坂邑郡但宿賤婦等入山の方言ヤカ云  
下稱ハ莖のいと刈採り粗皮を流るに 靴ハ仕用を近頃

誠於此大蔵省紡綯麻皮等の及ぶと云るは何れを又雨露水中に  
投りても大強靱也又産地、米子入山左滿溪洞山田牧村也

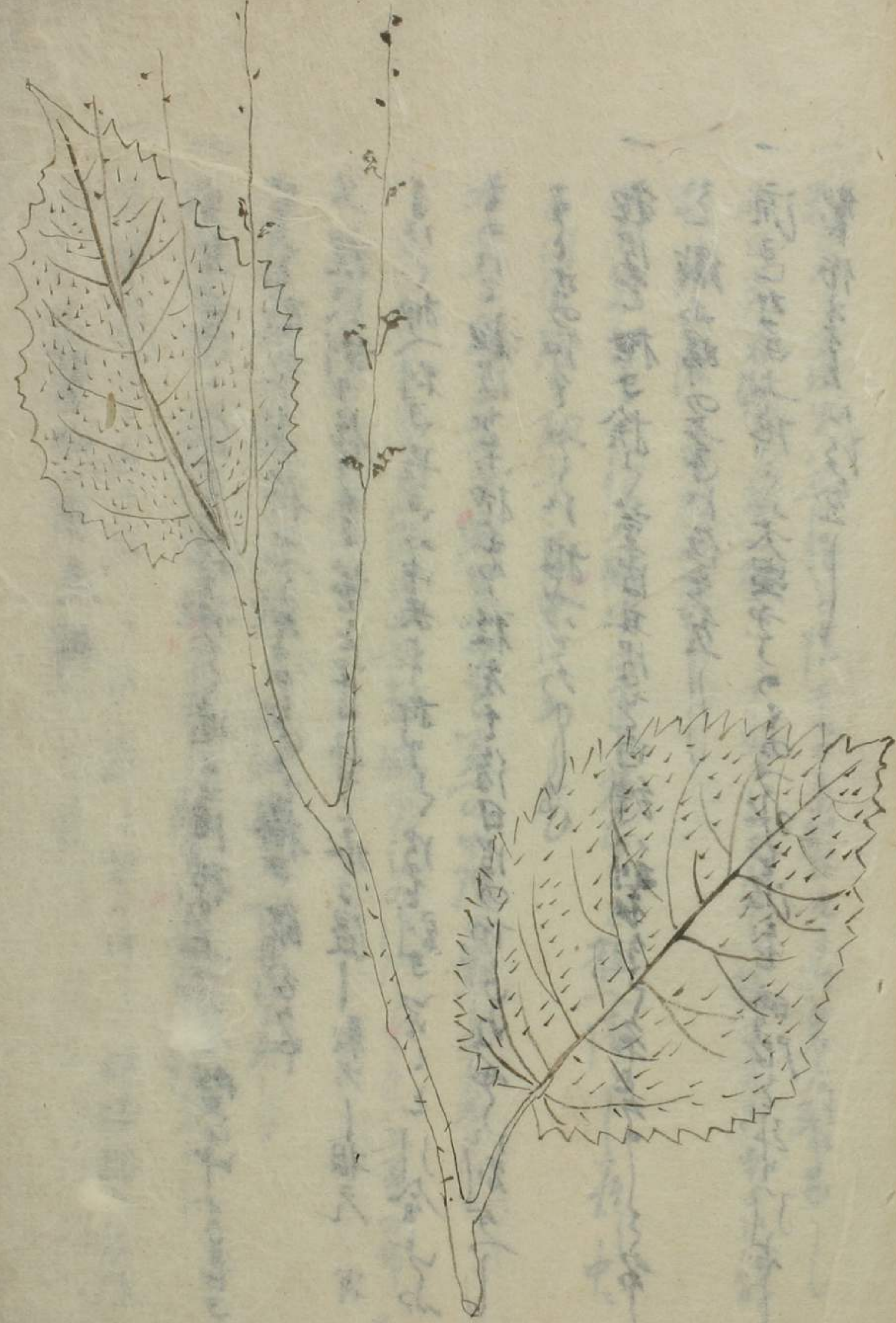
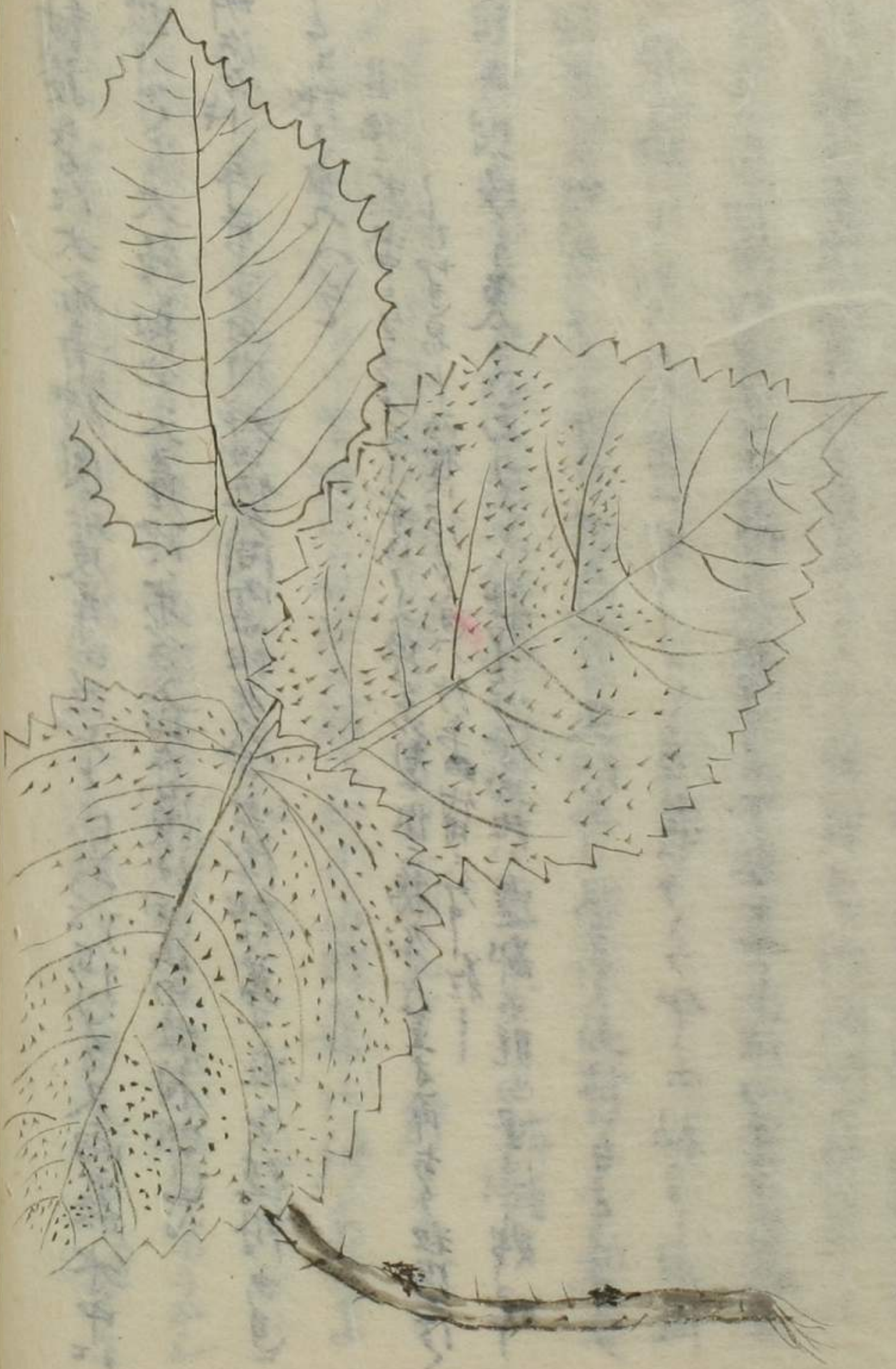
明治六年、年東京府内神田佐久間所産地、今古除地、草麻と稱附あり  
と云地を見へ

此種ニ數年中生長するが、并にハ序糸製作ニ稿なる莖才麻あり粗皮は  
文化年間の頃より貴人にあり、秋中、土の邊鄙不賤の里に賤婦  
ハ卸里古町は物と云く世に風習文に云くぬき、土に生るるイラ  
と信る州を刈り採り粗皮を製し、夏後のテウの中、の神をし羽織  
ヤカを製作するに形なる若、のやゝ中、に以てる不也  
言に何れに衣とへ

薩摩上布當國の深山に生長する様は何れを、終糸に製衣造し  
と云、上布糸と云、終糸、強靱なる糸、一箇用の不國、華の生理



研究勉勵工支機工製作手第其代のて國と稱せり





製紵糸造辨

- 一 生草干草を入山すす掃き取り速く薄板の上のせ盤の中より長草  
草を箱中へ移し木桶の中より取り出し楢葉を解き白くす
- 一 又洗に六割り掃き取り草を半日水に浸し取出し根元  
手早く押入利き長草の中より折りと皮を剥きついで川金す  
ものにて粗皮を剥き取り後日皮の切りぬきぬき別々にし  
ここのはのややりに扱ふなりし
- 一 粗皮を楢葉に捨てる草皮其皮を白紵に剥きぬき糸とす  
と織糸婦の手に任せて
- 一 流連力すお地と大壘すつものへ水を汲む時限をとりし  
製作をすし心は

- 一 剥きたる甘皮を三日程と陰干し糸製成すこと糸糸を剥き易し  
又日光を乾しぬき硬くし剥きにかかりし乾きぬき糸糸は能  
程に水に浸し取扱ふなりし
- 一 又白紵糸等を扱ふに織糸の糸と替りしと扱へ法は糸糸の中  
子同質殊を融すに量量にありし
- 一 又十二歳より二十歳迄の女氣威をすものにはついで上草の布ハ  
凡十九七より二十歳迄の女氣威をすものにはついで上草の布ハ  
織糸を好とせし
- 一 又生草糸布織すに二種に又試檢の上初者何とすし
- 一 花實生せたる布に掃き取り糸を製し糸糸に最上と心は
- 一 草草の粗皮を剥きぬき水に浸し扱ふなりし時限移りぬ糸  
に心を用なりし



一白粉と利き糸を練りに各女の上子と標むし先婦等に任せ  
てまうを

一茶臼と利き抄りに天幕と見極標を付と

又両後は何きう多き品弱し心を同田に

一生糸の上等を標し利き糸に各女へ又糸に節の付く織るに

又糸を各女に付とめく丸又向の品きり

又種々の布を工次糸織工を各女に各女に製作 賤の紐括に

用由りあり

又仔細種々の代用に標する

一晒は八雪中の水又寒水と標する

一旧糸類 横糸あり

一織工等を其好に治すを各女に







